



[エマオ通信]

No.18 (1月15日発行)
 発行人 高良 研一(会長)
 編集人 稲川 仁(事務局長)
 発信者 木村 均(書記)

日本バプテスト連盟全国壮年会連合 「伝道者養成と教会形成を担う働き」

25/26 年度主題: 「私と教会が元気になるには」 聖句: わたしたちの心は燃えていたではないか (ルカ 24:32)

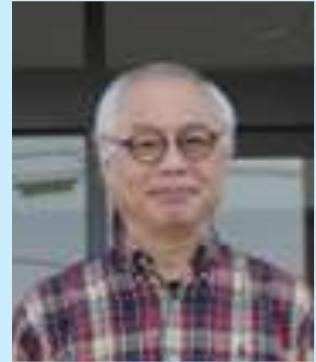
<メッセージ> 「『青春』はいつまでも」

天野 英二 (宇都宮教会牧師)

今から十年ほど前、2007年8月のこと、東京地方連合、北関東地方連合、神奈川連合、西関東地方連合の四地方連合が協働して実行委員会を組織し、天城山荘において全国壮年大会が開催された。当時、地方連合から派遣された実行委員は、ほぼ全員が現役の社会人であり、遠方では100キロメートル以上離れた地域から、毎月時間を割いて東京に集まっていた。北は北海道、南は九州に至るまで、各地から集うであろう参加者の姿を思い描きながら、どのようにすれば心から納得し、満足してもらえる大会を提供できるのかを祈りつつ、それぞれが持てる限りの知恵を出し合い、プログラムを作り上げていった。

大会終了後、山荘の会議室において、実行委員と当日の運営スタッフが集い、すべてのプログラムが主なる神の守りのうちに無事完了したことを感謝する祈り会を持った。そのとき、祈り会に参加した者全員が感極まり、肩を抱き合って大人泣きした光景は私にとっての忘れることができない美しい記憶であり、そのとき共に涙を流しあった仲間たちの姿は年を重ね経験を積み上げてきた年齢層というより、感覚を研ぎ澄ませて出来事を新鮮に感じ取り、感動を純粋に受け止め、自身の心に感謝と喜び溢れさせる青年そのものであった。そして、あの時の経験があるからこそ、自分自身、年相応に体力の衰えを覚え、病を抱える現在にあっても、意識の上では自らも「青年」として生きようとしているし、様々な「壮年」という括りの中で出会う様々な人々に対しても「青年のようなエネルギーをもって教会を楽しんでいこう」と声をかけ続けている。

いつまでもいわゆる「青春」を謳歌できるのは自力ではなく神の助けによって立つキリスト者の特権だと信じている。地上の生を終えるその日までこの特権を行使し続けて行きたい。



<証①> 「私たちの思いを遙かにこえて」

河原 猛 (金沢教会)

無牧師の金沢キリスト教会は毎週を多くの方々に説教奉仕をお願いして主日礼拝を守っています。今年の新年礼拝は私の説教奉仕の時を頂きました。私はイザヤ書43:16-20「私たちの思いを遙かにこえて」と題して説教奉仕をさせて頂きました。新年礼拝を前に聖書を読み進める中で、「新しい始まり」という思いが強くあり、この御言葉へと導かれました。預言者が立てられる時代とは、社会が乱れ、神さまへの悔い改めが必要とされる時代です。

イザヤ書43章の言葉は、イスラエルの民は偶像礼拝と不正の結果として裁きを受け、「なぜ私たちはこうなったのか」「神さまはもう私たちを見捨てたのではないか」と、信仰そのものが揺らぐ状況にであったと思われます。彼らにとって過去とは、懐かしい思い出ではなく、悔いと痛みを伴う記憶だったのです。そのようなイスラエルの民に向かって、神さまはこう語られます。「先のことに心を留めるな。昔のことを思い出すな。」これは、過去をなかったことにせよ、という意味ではありません。悔い改めを越えて、過去に縛られ続けるのではなく、今、神さまが行おうとしておられる新しい御業に目を向けよ、という招きです。

16~17節では、出エジプトという偉大な救いの出来事が想起されますが、神さまはその出来事さえも超えて、「見よ、新しいことをわたしは行う」と宣言されます。神さまは過去の神さまではなく、今も、これからも働く神さまなのです。私たちは人生の中で、何度も新しい始まりを経験します。しかし新しさは、希望と同時に不安や恐れを伴います。「本当にやっていけるだろうか」「また失敗するのではないか」と、私たちの心は過去の経験に引き戻されます。失敗や後悔だけでなく、過去の成功や慣れ親しんだやり方さえも、私たちを前に進めなくすることがあります。

このメッセージは無牧師の金沢キリスト教会へ向けて語ったのですが、教会においても同じ事が言えるのではないでしょうか? 信徒の減少傾向が多くの教会で起こっています、無牧師の教会も増えてきました。これまでの歩みを振り返り、さまざまな思いが去来します。しかし、過去にとどまり続けるなら、神さまが今与えようとしておられる新しい歩みを見失ってしまいます。私たちの思いを遙かに超えて働く神さまを信頼し、過去に縛られず、新しい一步を踏み出すことが出来るよう、祈り続けて行きたいと思います。



<証②> 「境界を超えて ～神戸西バプテスト教会 壮年会読書会～」 関西地方教会連合壮年会 会計 豊蔵 広泰（神戸西教会）

日本のキリスト教信者は総人口の約1.0%、さらに男性の比率を30%とすると、男性信者は総人口の僅か0.3%という計算になります。諸説ありますが、男性は、論理的に矛盾が生じると前へ進めなくなる人が多く、宗教的なアプローチとなると、どうしても敷居が高くなる傾向にあるようです。しかし、聖書やキリスト教に興味がある人は少なくなく、本当に信じるものは何かを追い求めている人は多いと思います。

それなら、教会員でなくても、少しでも宗教に興味がある人が集まって一つの本を読み、政治的でも、学術的でも境界を超えたアプローチで議論をしようということになりました。それが、神戸西教会の壮年会読書会のスタートです。

私は、14年前の43歳でクリスチヤンになった会社員です。若い頃は、仕事一筋、家庭を程ほどに生きる典型的に昭和な日本男性でした。

転機が訪れたのは、2年間2008年前後にアメリカに単身赴任したことでした。

外資系でアメリカ人上司と接することが多かったのですが、考え方の奥深さ、フェアな姿勢、信念を持った余裕のようなものがいつも感じられ、私がたどり着いたのが、信仰生活を持つということでした。母がクリスチヤンで垣根が低かったこともあります、帰国時に紹介された神戸西教会に通うようになり、2年後にバプテスマを受けました。決め手は、当時牧師であった松本理先生との読書会を通してでした。

今の壮年読書会は、2015年に始スタートしました。毎月土曜日夕方一時間半です。まず、①社会学者・橋爪大三郎氏の「教養としての聖書」で、旧約・新約聖書の主要箇所を学びました。続いて、②池上彰氏の「宗教分かれば世界宗教が分かる」で、神道・仏教やイスラム教も学び、③来住英俊「キリスト教は、役に立つか」で、イエスが段階的に近づいてくるパターンを知り、④ヘンリー・クラウドの「境界線」では、2年間で500ページを読み、自分自身に境界線（人生）をもつことを議論しました。

その後、⑤寺島実郎の「人間と宗教」⑥MAROの「おとな聖書」を読んで、只今、茂木健一郎、奥田知士「助けてと言える人にへ」を始めたところです。

集う人々が、境界を超えて議論し刺激し合って、少しでも前に進むことをお祈りします。



読書会の本

<今後の歩みと働きのための祈り>

- 全国壮年会連合オンライン研修会、3月14日(土)10-12時、Zoom ID: 405 896 1393 パス: sonen
テーマ：「この時代にバプテストとして生きる」 副題：「安定を図る誘惑に抗い、新しく歩み出す信仰の群れ」
講師：朴 思郁（ぱく さうく）日本バプテスト連盟宣教研究所 所長／西川口キリスト教会牧師 参加費無料
- 昨年11月1日(土) 奨学金委員（北村委員長、古田委員）による西南学院大学神学部の神学生の面談が行われました。2名の方が新たに入学することになりました。今後神学部で学ぶ神学生が更に起こされますように。来年度入学する予定の方々の準備、そして送り出す教会のためにお祈りください。
- 働きながら、東京バプテスト神学校や九州バプテスト神学校で学ぶ方々が起こされるように。また、本科生で学んでいる方々の次の歩みのために、そして特に、専攻科に進む方々のために、主の備えが豊かにありますように。
- 福井教会（平良憲誠牧師）への第1回協力伝道派遣チーム（伝道隊）による、大変素晴らしい新会堂での、昨年11月15-16日の働きに続けて、更なる福井教会への協力伝道派遣チームのためにお祈りください。そして、平良憲誠牧師夫妻や教会員の方々の主にあっての働きのためにお祈りください。
- 昨年8月の全国壮年会連合の定期総会（文書による）の協議事項の「属性（性別、既婚・未婚、年齢）によらない全国壮年会連合の今後の在り方」について、女性連合役員会より申し入れがあり、オンラインによる二者懇談会を1月13日(火)の午前中に開催しました。全国壮年会連合としては、元々可能ならば、来年度の議案したいと考えておきましたが、全国壮年会連合としては、今後も女性連合と対話し、また共に学びの機会を得て、時間を掛けながら、代表者会議メンバーで選出する検討委員会の方々の働きを踏まえて、対応していくと考えておりますので、お祈りに覚えていただきますように。
- 西南学院大学神学部の神学生、東京バプテスト神学校・九州バプテスト神学校で学ぶ専攻科の神学生の研修教会での学びと共に豊かな学びの為に。
- 特色と強みを生かした三つの神学校で、諸教会・伝道所の各教会員が学ぶ機会が豊かに供えられるように。特にオンライン受講やスクーリング等により、信徒説教のための学びを深め、無牧師の教会・伝道所等での奉仕が豊かに導かれますように。信徒一人ひとりの献身から「教役者の働きを担う献身」へ導かれますように。
- 全国壮年会連合は、今年8月6日(木)～8日(土)で開催される、西南学院大学での第一回バプテストフェスティバルに共催しておりますので、壮年の皆さんのご参加を期待しております。なお、初日の午前11時からランチを共にしながら、全国壮年大会を短く開催しますので、併せてご参加をお願いいたします。
- 来年2027年度の全国壮年大会を担当します、神奈川連合壮年会の皆さん準備が豊かに導かれますように。
- 再来年2028年度の全国壮年会連合結成50周年記念大会の準備のために。

<お願ひ>

- それぞれのところで主にあって頑張っておられる方々やその働きをご紹介ください。このエマオ通信でその証を紹介してまいります。
- 第1回壮年大会（1965年目白ヶ丘教会他）開催以来の大会資料をお持ちの方をご紹介くださいますように。